

お彼岸に想う

日差しも日に日に柔になり、お彼岸の近い事を告げてくれます。どの家庭でもお彼岸にはお墓参りをなさいます。

当寺でもお中日には、色とりどりの花と、お線香の香りが充満し、それはそれは厳肅で荘厳な趣を呈します。又、幼子が手を合わせてお参りしている姿をみますと、ほほえましいのを超えて尊いものを感じさせられます。

お彼岸即墓参り……大変結構なことですが、実はそれだけの日ではありません。少し詳しく記してみますと

仏教では私達が住む苦しみ多い娑婆の世界を此岸（シガン）といい、悟りの世界、仏土を彼岸といえます。此岸と彼岸の間は流れる川にたとえられて仏法は説かれているのです。

私たちが日常使っているお彼岸という言葉は、実は到彼岸（トウヒガン）の略語なのです。本来的には此岸から彼岸に到る行（ギョウ）を行う事ですので、お彼岸の日は仏道にはげむ日、彼岸（悟り）を願う日、仏法に親しむ日ということになります。

いつも阿彌陀様（佛）にご無沙汰しがちな私たちです。この日だけは是非お墓参りだけに終らず、お家のお仏壇、お寺の本堂にお参りいただきたいものです。生かされている私であったと自己をふりかえり、感謝ができる日でありたいものです。